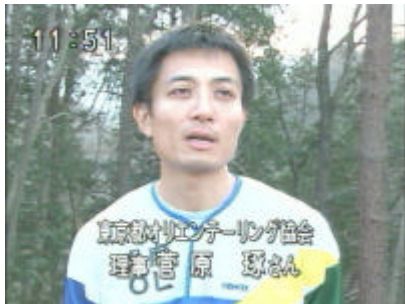


メディアミックス！

多摩 JC 大会は TV 放送とインターネット、そして地道な広報活動が成果をあげ、大量の初心者参加者獲得に成功した。

また森林体験イベント、などいろんな分野に果敢に挑戦した運営だった。

1月20日、ジュニアチャンピオン大会が盛会に終わったことをご報告いたします。参加者の皆様、ご協力いただいた皆様に多摩オリエンテーリングクラブ員一同感謝いたします。かなり遠方からの参加者も年々増えているのを感じます。また、「この大会が楽しみ」という声を多数いただいていることも我々の励みとなっております。



昨年は前夜の雪で開催が危ぶまれる状況でしたが、今年は天候に恵まれました。(翌日は大嵐でした。)

今年

事前申込 378 名、
当日申込 132 名、
申込合計 510 名 (参加者 454 名)

昨年

事前申込 385 名
当日申込 25 名
申込合計 410 名 (参加者 250 名)

「何か新しいことを」と常に進化をめざす当クラブの主催大会ですが、今年の大会では従来にも増して新しい取り組みにチャレンジしました。今回の大会のトピックをいくつか紹介したいと思います。

ジュニアチャンピオン成績

男子

- 1 山田高志 18 桐朋学園 0:36:59
- 2 山崎貴彦 17 桐朋学園 0:42:50
- 3 川村 渉 16 麻布学園 0:43:53

女子

- 1 渡邊久美 16 実践学園 0:48:24
- 2 中島 望 18 東農大三 1:13:51

今年のジュニアチャンピオンは、男子は山田高志くんが三連覇で制しました。男子では初の快挙です。女子は参加者2名と相変わらず寂しいですが、渡邊家が三連覇。JME は6位までに3人も高校1年生が入っています。来年は彼らが活躍するのでしょうか？

TV放送...

ひょんなことから、競技オリエンテーリングが大会前日、NHKの電波に乗ることになりました。大会の2週間半ほど前に、JOA事務局の古賀さんから連絡をいただき、その日のうちにNHKのディレクター氏と接触、「こんにちはいっと6けん」という番組の、各界で頑張っている個人にスポットを当てる「東京・いま人」というコーナーで「日本チャンピオンの松澤君が競技オリエンテーリングを語る。」というスタイルがまとまりました。メールで話を練り、翌週末に都内某所でロケも済ませました。あとは生放送の松澤君のトークにすべてお任せ。コーナーの最後で「日本チャンピオンも参加する翌日の大会」として当大会をPRしていただくことにも成功。



土曜日昼の時間帯、しかも関東ローカルとはいえ、NHKで12分間にわたって放送してもらったことは非常に大きなインパクトでした。(放送直後から、orienteering.comへのアクセスが急増しました。)

NHKに売り込んだのは古賀さんとのこと、この場を借りてお礼を申し上げます。

あふれる当日参加者

TV放送では松澤君がわかりやすく、的確に競技を紹介してくれました。番組の最後で本大会を紹介してもらえたおかげで、まったくの初心者、古い経験者に多数参加いただくことができました。また、準備段階から地元に対して積極的にアプローチしたため、地元小学生や森林ボランティア団体などにも多数ご参加いただけました。さらに協賛のアートスポーツ様の店頭で要項配布をしていただきました。これらの相乗効果で(決してTV効果だけではなかったのです!)、当日申込者は132名、例年の2.5~3倍となり文字通り「嬉しい悲鳴」でした。そのため受付が混雑し、ご迷惑をおかけいたしました。同じく、初心者説明所も大盛況で十分な説明ができなかったということもあろうかと思えます。この場を借りてお詫びいたします。(AクラスよりBクラスやNクラスの当日申込みが多い大会って、なかなかないかと思えます。)

主催者に多数のメールや声が寄せられておりますが、「楽しかった」「こんなに面白いとは思わなかった」「こんなに低価格で提供してもらって申し訳ない」等、非常に好意的な声が多く、役員一同ホッとしているところです。

日常的にオリエンテーリングを楽しんでいる層以外に参加してもらおうというのは、初心者が我々の常識では考えられない行動をとる可能性が否定できないという点で、両刃の剣でもあります。しかし、理解者・愛好者を増やしていく活動も広く取り組んでいくべき課題だと考えます。一地域クラブでできることには限りがあります。多くの賛同が得られると良いのですが。



森林づくり体験イベント

大会前日、試走後の時間を利用して多摩OLクラブ員がボランティアを体験しました。限られた時間ではありましたが、なかなか好評でした。大会当日は、表彰式までの時間を利用して、体験イベントを企画しました。予想を上回る32名の参加者を得て大成功でした。森林の大切さを考えていただくきっかけになればと思います。

会場をお願いした「緑の募金（緑の羽根募金）」の合計金額は「7,789円」にもなりました。今回皆様からお寄せ頂きましたこの募金は、東京都緑化推進委員会を経て、東京都内の各地で精力的に活動をされている「森林づくりボランティア」の諸団体等への助成に活用されます。

盛況だった表彰式

森林イベントとの兼ね合いもあり、開始がやや遅くなってしまいました。多くの方に会場に残っていただきました。「表彰される喜び」が将来につながることを鑑み、ジュニアクラスでは参加者が少なくても原則としてクラス統合は行いません。この大会の主人公はあくまでもジュニア選手達、ジュニア選手にはメダル・特製賞状をはじめ、協賛の個人・企業からの豪華賞品が贈られました。（一般クラスの表彰はメダルなしです）

最後に、残った賞品争奪ジャンケン大会で大いに盛り上がりました。

スポーツエントリー導入

従来の定額小為替の同封、郵便振り込みに加え、「スポーツエントリー」によるエントリーも導入しました。郵便局に行く時間のない方には非常に便利な方式かと思えます。

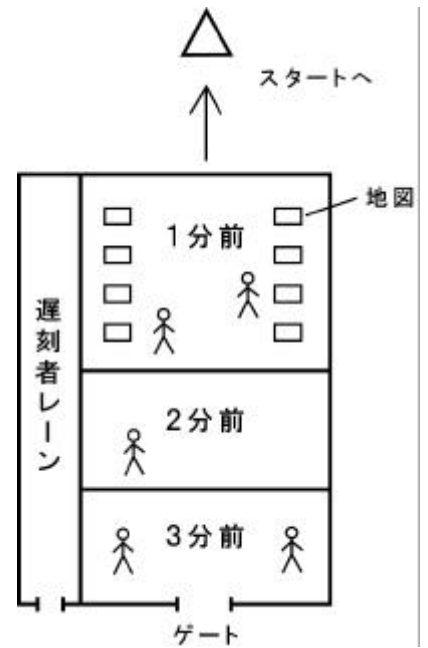
新しいスタート方式

日本でおなじみのスタート方式（3分前から枠が田の字に区切られている）は、実は国際的にはほとんど見られません。日本の方式は、出走者のチェックがスタート役員の負担になり、スタート枠を増やしにくいという面があります。それが、少人数クラスでも1分間隔に押し込んでスタートさせるという問題の遠因にもなっています。

海外で多く取り入れられている方式は、3分前にゲートで出走者チェックを一気に行ってしまいます。あとは、順に進んでもらい、1分前に自分の地図の前に立ってもらうだけです。設営も楽ですし、スタッフの負担も低くなります。参加者に強いる負担増も特にありません。

今回、この方式を取り入れてみましたが、特に混乱もなく、非常にスムーズに運用することができました。また、地図裏面への名前記入はゴールで書く方式にしました。これは、早いゴールで地図回収を受ける人だけ書いていただければ済むからです。スタート直前の集中を邪魔されない、という点からも競技者に優しいのではないでしょう。

今後、多くのイベントがこの方式にトライしていただければと思います。省力化すべき所は省力化し、浮いた人員は別パートで活躍してもらいましょう。



マナー向上のお願い

本大会では参加者全員に誓約書の提出をお願いいたしました。これは昨年の大会で参加者がゴミ（穴のあいた汚れたシューズ）を他人の敷地内に投棄するという「事件」が起きたためです。オリエンテーリング愛好者が白い目で見られることのないよう、愛好者各人が「自分がオリエンテーリング界の代表である」という気持ちを持って行動していただければと思います。（関東学生連盟でも同様の誓約書を参加者をお願いする体制になりました。危機感を持ってくださった表れと捉えております。）

本大会では目立ったトラブルはありませんでした。（会場内に少ないゴミが残されていましたが、...）皆さんのご協力に感謝いたします。

参考までに、本大会でお願いした誓約事項を再掲させていただきます。

『オリエンテーリングは地域の方々との協力無くして成り立つ競技ではありません。しかし、近年マナーの低下により地域の方々にご迷惑をおかけするケースが報告されています。このまま放置すれば、いずれ大会開催ができなくなるかもしれません。多摩OLとしても渉外活動は行っていますが、オリエンティアの一人一人が注意をすれば多くのことは防げると思います。本大会では、下記の誓約事項に同意される方のみがエントリーできます。誓約事項に同意されない場合は、大会に参加できません。

- ・全ての森林には所有者がおり、所有者が手入れを施してこそ成り立っている森林であるという認識を

- 持ち、常に規律を優先して自然生態系への負荷をかけない行動をとります。
- 耕作地や民家の敷地等の地図に記載された立入禁止区域には一切入りません。
- 地域の方々に配慮して、住居地域周辺には出来る限り近づかないとともに、ご迷惑をおかけしません。
- 会場内、トレイン内、歩行中（移動中）の禁煙を遵守いたします。
- 会場の使用にあたっては、会場の規則を遵守し従います。
- ゴミや不要となった物は、必ず全て自宅まで持ち帰ります。
- 会場の指定された個所以外の水道で汚れた体、足、靴、ウエア等を洗いません。
- 会場周辺の花壇や植え込みなどに入りません。
- 会場の備品を許可無く使用しません。
- 大会参加に於いてはプログラムを

通読します。

- ・他の大会参加者が誓約事項に反する行動、あるいは抵触する行動を行った、あるいは見たときは、必ずお互い注意を促します。』

地図販売再開のご案内

昨年の大会時に発生したトラブルを受けて、当クラブは作成地図の販売を自粛してまいりました。再発防止策を熟考し2001年12月より、「事前にトレイン使用についての遵守事項(トレイン毎の特記事項あり)を記載した誓約書にサインできる団体のみ販売し、使用後も使用報告書を期限内に提出していただく」という条件で地図販売の再開をいたしました。利用者各位にはご面倒をおかけいたしますが、以上周知のほどをお願いいたします。詳しくは当クラブホームページをご覧ください。

とりとめもなく書いてきましたが大会の運営指針は、できるだけ安い参加費で、競技性の高いレースを提供する。参加者に楽しんでいただく。自分が参加者の時に感じる不備をできる限り改善していく(たとえば長いスタート間隔確保、トイレや地図販売の行列撲滅) というものです。そして次世代を担うジュニア選手諸君の飛躍のきっかけになる大会でありたいと思っています。次回大会はいよいよ20回目です。また、+ をめざしていきたいと思います。皆様の支持と応援をよろしくお願いいたします。

(おわり)

問い合わせ先:

tama@orienteering.com

多摩OLホームページ:

<http://www.orienteering.com/~tama>

今こそ普及のアイデアを結集しよう!

村越 真

300人の参加者も確保できなかった西日本大会や、首都圏にも関わらず600人が精一杯であった秩父。今年の公認大会は、私たちオリエンテーリング愛好者に、OL人口減少の実態をまざまざと見せ付けた。もちろん、大会参加人口の減少はオリエンテーリングだけの問題ではない。多くの野外スポーツの興隆や、手軽なレジャーの影響で、様々なスポーツイベントの参加者数は頭打ちになっている。しかし、同時にオリエンテーリング界が、普及の努力を充分してきたかという点にも疑問が残る。単純に参加者数が増えればいいというものでもない。しかし多くの人たちにオリエンテーリングに触れる機会を提供し、またその中から将来のオリエンテーリングを支える人材を育てていくという普及教育の作業に、今こそオリエンテーリング界を挙げて取り組まな

ければならない時期に来ている。

御殿場で行われた0フォーラムの中で、各地の普及事業の一端が紹介された。決して、オリエンテーリング界は個々の地域、クラブを見れば普及の努力を怠ってきたわけではない。むしろ多大な努力を費やしてきたと言うべきだろう。しかし、印象としてそれらの努力が目に見えてこない。統一した戦略、普及のためのパッケージなど、目に見える形での普及方略が急務なのだ。

JOAの普及教育委員会では、このような現状を捉えて、来年度に向けて普及教育の方策を検討する予定でいる。また全日本大会の前日の全国協議会では、約45分の時間をいただいて、普及教育の方策について、各会員の意見やアイデアを聞くセッションを提供する予定である。もし、読者の中に、この全国協議会に出席する方がいたら、

ぜひ資料や意見を持ち寄っていただきたい。

もちろん、全国協議会に出席しない人にも、知恵を出してほしい。私たちは、ここ数ヶ月のヒアリングの中で、各地に素晴らしい普及のためのアイデアや事例があることを発見した。こうした事例を集約し、普及のための事例集、そして普及のツールとしてパッケージ化していきたいと考えている。

全国協議会でのプレゼン内容は、以下のアドレスに掲載してある。ぜひ普及教育委員会まで意見やアイデアを寄せていただきたい。

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~ehmsura/>

(おわり)